

基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	教育の情報化推進本部（以下、「本部」）は、教育の情報化推進本部規程のなかに本部の理念・目的を定め、組織として果たすべき役割を明確化している。	本部は、「本学の教育の質的向上を図ることを目的として、情報メディアの利用による教育の情報化を推進する」ことを本部規定に定めることで、理念・目的および組織として果たすべき役割を明確化している。これによって、本学における教育の情報化推進に関わる案件が本部へ集約され、本部は、全学的な視点で効率的に教育の情報化事業を推進している。		本学の教育の情報化推進に関わる案件が本部へ集約され、全学的な視点で効率的に教育の情報化事業を推進すると同時に、本学の情報環境が社会的にも注目を集め、高い評価が得られるようにする。		
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	本部の理念・目的は教育の情報化推進本部規程第1条～3条に明示している。理念・目的の適切性についての検証作業は、教育の情報化推進本部の単年度計画書において、該当規定の確認作業実施を記載し実行している。具体的には、定期的で開催している各推進部の推進部会において検証作業を実施し、各推進部会の検証作業終了後に本部長は本部会議を開催して、検証結果の確認を行っている。	各推進部の推進部会、および本部会議において、教育の情報化推進本部規程第1～3条の確認と検証作業を行うことで、全本部員が、理念・目的についての検証作業に参加し、適切性についての意見交換ができる体制となっている。	本部の理念・目的の適切性については、本部会議において定期的に規定の該当箇所の検証を行い判断しているが、客観的な評価という面では検証方法が難しく、検討をすすめている段階である。	本学の教育の情報化を推進するという本部の理念・目的を効率的かつ機能的に推進するため、各推進部の役割、権限などの見直しや検証をする体制を検討し、本部の事業推進プロセスが適切に機能しているかを検証する。		

2016年度 教育の情報化推進本部 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画	
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか					
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	教育の情報化推進本部の本部長は教務部長または副教務部長のうちから学長が指名し、副本部長も専任教員のうちから、学長の推薦により、理事会において任命されている。また、本部員も専任教員のうちから、本部長の推薦により、学長が任命している。このような組織体制とすることで、「教育の質的向上を図る」という目的を果たすために適切であり、また、学長が示す「教育・研究に関する年度計画書及び長期計画書」の方針に沿った本部の業務遂行ができるよう配慮されている。さらに、教務部や各学部との連携も容易となり、教育の情報化に関わる要望を全学的に集約できる体制となっている。				
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか					
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	教育の情報化推進本部の組織構成・責任体制は、教育の情報化推進本部規程第5条～11条に規定されている。組織構成の適切性の検証作業については、毎年、定期的で開催している各推進部の推進部会において、教育の情報化推進本部規程の該当条項について確認し、適切性の検証を行っている。各推進部会の検証作業後、本部長は本部会議を開催し、検証結果の確認を行っている。	各推進部の推進部会、および本部会議において、教育の情報化推進本部規程の該当部分の確認および検証作業を実施することで、全本部員が、本部の責任主体、組織体制、理念・目的等についての認識を合わせると同時に、本部の組織構成の適切性について意見交換ができる体制となっている。			

2016年度 教育の情報化推進本部 自己点検・評価報告書

基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(1) 付属機関として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか						
a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該付属機関の理念・目的を実現するために、教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	本部の編制方針は、教育の情報化推進本部規程第6～9条に基づき、本部長、副本部長、本部員と規定されている。「本部長は、教務部長又は副教務部長のうちから学長が指名する。」と明示されている。	教育の情報化推進本部の本部会議は、規程により、本部長の推薦により学長が任命する本部員により構成されており、このことは、当本部が単に学部等諸機関間の連絡調整にとどまらずに、当本部の使命、目的の遂行を推進しやすいものとしている。 また、本部員は、「教育支援推進部」「情報教育推進部」「情報環境推進部」のいずれかに部員として所属することで、本部員が能動的に業務の推進を図ることができる組織となっている。	情報に関するある程度の専門知識が要求されることもあり、各推進部の推進部長や一部本部員に負担が集中してしまう傾向がある。このことの改善を図る。 2013年度に実施した三菱総研による外部評価においては、大学全体の情報化戦略を検討する機関がないとの指摘があり、情報基盤本部とユビキタス教育運営委員会と連携・協議する機関の設置検討が必要である。		規程では必要に応じて推進副部長をおくことができるようになってきているので、各推進部長や一部本部員に負担が集中してしまう傾向を緩和するため、推進副部長をおくなどの改善を図る。 全学的な情報戦略を検討する組織について、情報担当常勤理事のもと「情報化戦略協議会（仮称）」の設置について検討を進めており、教育の情報化推進本部としてもこれを承認し推進することとした。	情報メディアの活用がますます多様化し、高度化が求められている中で、当本部の使命・目的の達成をさらに推進するためには、優れた情報インフラが必要であり、情報インフラの整備・運用を担っている情報基盤本部との連携・協働が不可欠である。また、e-Learningの推進を担うユビキタスカレッジ運営委員会との連携も必要である。これら情報関連組織との連携・協働をより円滑に行えるよう、「情報化戦略協議会（仮称）」などを通じて組織、体制の見直しを図っていく。
(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか						
a ●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。 【400字】	本部が運営している「情報関係科目」を担当する教員の任用にあたっては、教育の情報化推進本部を経験した教員にコーディネーターとして協力を仰ぎ、当該学部で審査および兼担の依頼をしている。 学部によっては専兼比率の見直しなどの動きもあること、教員人事のスケジュールから新規任用は難しい場合があることから、後任補充が必要な場合は現在情報関係科目を担当している教員のうち、同じ分野の教員に担当をお願いすることを第一としている。		情報関係科目の担当教員の募集・採用において、教員の急な退任があった場合の後任者の補充体制を構築する必要がある。		関連学部教務主任と連携し、情報関係科目の担当教員の募集・採用を円滑に行うため、教務部委員会を通じて協力体制を構築する。	
(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか						
教員の教育研究活動等の評価の実施						
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】	授業改善のためのアンケートとは別に情報関係科目履修者向けアンケートを各学期に実施し、情報教育推進部において授業内容が適切であるかを確認している。また、例年9月に情報関係科目担当の教員説明会を実施し、教育活動の活性化に努めている。	情報関係科目教員説明会において、情報関係科目履修者アンケートの集計結果を情報共有し、授業運営改善の一助としている。		アンケート結果は教員の要望に応じてデータを提供している。情報教育推進部で検討を行い、2018年度から全教員にフィードバックする。		

2016年度 教育の情報化推進本部 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画																																		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画																																	
(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき授業科目を開設し体系的に編成しているか																																						
必要な授業科目の開設状況																																						
a ◎CPに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【600字～800字程度】	情報関係科目は、情報に関する基礎的な知識と、情報技術を活用するために必要な情報機器の基本操作を習得し、各学部教育におけるリテラシーとしての役割を担っている。また、情報モラルを理解したうえで、情報化が進展する社会へ積極的に参画できる能力を養うことを目標としている。各学部のカリキュラム状況に留意しながら、科目設置をおこなっている。 2016年度は以下の科目を開設した。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">科目名</th> <th style="text-align: right;">設置コマ数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>ICTエレメンタリー</td><td style="text-align: right;">4</td></tr> <tr><td>ICTベーシックⅠ</td><td style="text-align: right;">80</td></tr> <tr><td>ICTベーシックⅡ</td><td style="text-align: right;">74</td></tr> <tr><td>ICT統計解析Ⅰ</td><td style="text-align: right;">8</td></tr> <tr><td>ICT統計解析Ⅱ</td><td style="text-align: right;">6</td></tr> <tr><td>ICTデータベースⅠ</td><td style="text-align: right;">8</td></tr> <tr><td>ICTデータベースⅡ</td><td style="text-align: right;">7</td></tr> <tr><td>ICTメディア編集Ⅰ</td><td style="text-align: right;">12</td></tr> <tr><td>ICTメディア編集Ⅱ</td><td style="text-align: right;">11</td></tr> <tr><td>ICTアプリ開発Ⅰ</td><td style="text-align: right;">2</td></tr> <tr><td>ICTアプリ開発Ⅱ</td><td style="text-align: right;">2</td></tr> <tr><td>ICTコンテンツデザインⅠ</td><td style="text-align: right;">1</td></tr> <tr><td>ICTコンテンツデザインⅡ</td><td style="text-align: right;">1</td></tr> <tr><td>ICT総合実践Ⅰ</td><td style="text-align: right;">1</td></tr> <tr><td>ICT総合実践Ⅱ</td><td style="text-align: right;">1</td></tr> </tbody> </table>	科目名	設置コマ数	ICTエレメンタリー	4	ICTベーシックⅠ	80	ICTベーシックⅡ	74	ICT統計解析Ⅰ	8	ICT統計解析Ⅱ	6	ICTデータベースⅠ	8	ICTデータベースⅡ	7	ICTメディア編集Ⅰ	12	ICTメディア編集Ⅱ	11	ICTアプリ開発Ⅰ	2	ICTアプリ開発Ⅱ	2	ICTコンテンツデザインⅠ	1	ICTコンテンツデザインⅡ	1	ICT総合実践Ⅰ	1	ICT総合実践Ⅱ	1	学生のニーズなど履修傾向を分析し、情報教育推進部会で検証を行っており、それに基づいて各キャンパスで適切な授業科目数を設置している。		授業計画策定時には、履修希望者数と設置コマ数のバランスを検証し、キャンパス間の調整やスクラップアンドビルドを原則として各科目の設置コマ数の調整をしていく。 また、各学部のカリキュラム改編にも留意し、適正規模での科目運営をおこなう。		初等・中等教育の学習指導要領の改訂に伴う影響を調査し、カリキュラム体制の見直しなど、社会情勢に合わせたカリキュラムを構築する。
科目名	設置コマ数																																					
ICTエレメンタリー	4																																					
ICTベーシックⅠ	80																																					
ICTベーシックⅡ	74																																					
ICT統計解析Ⅰ	8																																					
ICT統計解析Ⅱ	6																																					
ICTデータベースⅠ	8																																					
ICTデータベースⅡ	7																																					
ICTメディア編集Ⅰ	12																																					
ICTメディア編集Ⅱ	11																																					
ICTアプリ開発Ⅰ	2																																					
ICTアプリ開発Ⅱ	2																																					
ICTコンテンツデザインⅠ	1																																					
ICTコンテンツデザインⅡ	1																																					
ICT総合実践Ⅰ	1																																					
ICT総合実践Ⅱ	1																																					
順次性のある授業科目の体系的配置（履修体系図やコース系統図の明示、科目相関図、4年間の履修モデル、適切な科目区分など）																																						
c ●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。（学生の順次的・体系的な履修への配慮） 【約400字】	情報関係科目は各科目をエレメンタリー階層、基本階層、応用階層、総合発展階層の4階層に分類し、エレメンタリー階層の科目から、総合発展階層の科目へステップアップしていく段階的科目構成としている。各階層の概要と教育目標は、情報関係科目シラバス・履修案内リーフレットおよび本部ホームページに明示している。シラバスについては、ホームページ上に公開し、各学部のシラバスページからもリンクで参照できるように設定している。 また、新入生ガイダンス期間中に情報関係科目ガイダンスを開催し、科目内容と履修方法を学生に周知している。 履修者が科目を自身のICTリテラシーのレベルに合った科目を選択しやすくするために、WEB上サイトに「情報関係科目実力確認テスト」を用意し、学生自身が自分の知識レベルと情報関連科目の各科目で要求される知識レベルを確認できるようにしている。	情報関係科目実力確認テストについて、テスト結果ページから相当するレベルの科目のページにリンクを貼るよう改善したことで、利用環境が向上した。		実力確認テストの利用者数をモニターするとともに、情報関係科目履修者向けアンケートにおいて実力確認テストの活用度を調査し、問題の妥当性や、利用環境の更なる向上を目指す。																																		

2016年度 教育の情報化推進本部 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
				当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述	
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性						
d ●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか	情報関係科目の教育課程の適切性の検証については、教育の情報化推進本部が責任を負っている。毎年作成する教育研究に関する長期・中期計画書、単年度計画書には責任主体・組織、権限、手続き等について明記し、内容については教育の情報化推進本部で検証して、自己点検・評価報告書に記載している。学生、担当教員、運営主体の意見を反映しながら、特に技術革新の著しいIT環境の変化に対応できるよう検証し、教育課程の改善へとつなげている。	各学期終了後に情報関係科目履修者にアンケートを実施し、受講科目の満足度を調査している。アンケート結果は、情報教育推進部会および情報関係科目担当者説明会で共有し、教育改善の一助としている。現状では、学生の満足度は「非常に満足」が30%、「やや満足」が35%、と肯定的評価が7割近い結果が出ている。		今後、初等・中等教育におけるプログラミング授業の導入が開始されていることを受けて、その動向について情報収集を行い、受講者アンケート結果を踏まえて科目の適切性を検証する。		

2016年度 教育の情報化推進本部 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき各課程に相応しい教育を提供しているか						
教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容（何を教えているのか）						
a ◎何を教えているのか。どのように教育目標の実現を図っているのか。 【400字程度】	情報関係科目は各科目をエレメンタリー階層、基本階層、応用階層、総合発展階層の4階層に分類し、エレメンタリー階層の科目から、総合発展階層の科目へステップアップしていく段階的科目構成としている。 1. エレメンタリー階層 高等学校修了程度のICT能力に充たない学生を対象に、現代の情報社会で最低限必要な情報リテラシーの育成を目標としている。 2. 基本階層 ICTに関する基礎的な知識やPCの基本操作、情報倫理などの内容を扱う。大学生として必要な情報技術、新しい技術やシステムへの対応力、情報倫理、メディアとの接し方、コンテンツの扱い方などを総合的に習得することを目標としている。 また、「ICTベーシックI」では、履修者が最低限習得すべき項目を示した「ミニマムリクワイアメント」を設定し、どの教員で履修をしても、最低限習得する知識レベルが保証されるしくみとなっている。 3. 応用階層 基本階層で習得したICTの基礎知識やPCの操作技術などをベースに、情報の各分野をより専門的に学習する階層で、統計処理、画像・動画編集、コンテンツ作成、プログラミング、コンピュータサイエンス、データベース、メディア論などを取り扱う。 4. 総合発展階層 アプリケーション活用のスキルを確認しながら、それを実践で役立てるICT能力の習得を目指す階層。プロジェクト形式で課題に取り組み、問題発見・情報収集・コンテンツ作成・成果発表プレゼンテーションなど、トータルなICTスキルの習得を目標としている。	情報関係科目の基本階層科目である「ICTベーシックI」においてミニマムリクワイアメントを設定しているが、担当教員自らシラバス原稿の提出と合わせて「ミニマムリクワイアメントチェック表」を作成し、内容を確認するとともに、情報教育推進部でもその内容を確認することで、教員間の授業内容の差異が生じないように配慮している。				
特色ある教育プログラムの内容とその効果（当該学部等固有のプログラムやGP採択事業など）						
b ●特色、長所となるものを簡潔に記述してください。 【200字～400字程度】	単位認定のない「情報関連講習会」や「ITパスポート講習会」を開催し、エレメンタリー階層や基本階層を受講していない学生や、より理解を深めたい学生への興味を喚起する取り組みを実施している。メディア自習室、ITスキルを持つ特別嘱託職員を中心にTAとともに自主的な学習を支援する体制を整えている。			各キャンパスで情報関連講習会参加者にアンケートを実施しているが、データを共有して情報教育推進部で検証し、今後の改善のために活用する。	次年度も「情報関連講習会」や「ITパスポート講習会」を開催し、継続的に学生が利用できる環境を整える。	

2016年度 教育の情報化推進本部 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
(1) 教育方法及び学習方法は適切か						
教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性						
a ◎当該付属機関の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること 【約800字】	情報関係科目は、基礎的な科目から応用・発展科目まで段階的に科目を配置している。授業内容はシラバスに明記しており、学生は情報関連の多様な分野の中から、興味のある科目、自身のレベルに合った科目を選択し履修できるようになっている。授業形態としては、履修学生に1人1台パソコンを使用した実習と講義を組み合わせ実施している。また、きめ細かな指導を行うことができるよう履修登録人数の上限を設定している。多くの授業でグループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ、学生の積極的な学習を促している。各授業にはTAを配置して、授業中に質問対応や実習サポートをおこなう体制を整えている。これらの授業形態に関してはホームページやシラバス、新入生向けガイダンスにて学生に明示している。	情報関係科目の教育目標及び編成・実施方針をホームページやシラバスで公開することにより、教育の情報化推進本部の教育目標・授業形態を見える化することができる。		情報関係科目の履修者に行うアンケートの内容を検証し、見える化がどの程度実証されているか分析を行い、その結果を情報教育推進部会にフィードバックする。		
学生の主体的参加を促す授業方法（学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等）						
e ●学生の主体的な学びを促す教育（授業及び授業時間外の学習）を行っているか。 【なし～800字】	情報関係科目は履修登録人数の上限を設定しているため、多くの授業でグループ・ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れており、学生の積極的・主体的な学びを促進している。 また、情報関係科目の授業には授業補助TAを配置し、授業中特に実習時には巡回をし質問対応・実習サポートをおこなっている。また、各キャンパスのメディア自習室には、開室時間中特別嘱託職員またはTAが常駐し、自習中のソフトウェアの使用法に関する質問に応じるなど授業時間外の学習のサポートをおこなっている。 さらに、単位認定のない無料の講座として各キャンパスで各学期に「情報関連講習会（パソコン講習会）」を実施している。Officeなどの基本的なソフトウェアから、学生のニーズに合わせて画像処理・統計処理ソフトウェアまで多様な講座を開講し、情報関係科目を履修中の学生には授業内容の補完として、履修していない学生には自身の情報スキル向上として受講を促している。	2016年度情報関係科目履修者を実施したアンケートでは、TAに求めたいサポートとして、「授業についていけない時のフォロー」が最も多く全体の65%、次いで「ソフトウェアの使い方の質問対応」が全体の52%となっており、現在、TAが重点的に提供しているサポート内容と合致していた。				

2016年度 教育の情報化推進本部 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画	
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか					
a ◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること 【約300字】	情報関係科目シラバスは全科目について統一した書式を用い、下記の項目を掲載している。 [シラバス掲載項目] 授業の概要・到達目標・授業内容・履修上の注意・準備学習の内容・教科書・参考書・成績評価の方法 情報関係科目シラバスは教育の情報化推進本部ホームページでPDF版を掲載し、学生はWEBサイト上で自由に閲覧が可能となっているほか、各学部ホームページのシラバスからもリンクさせている。また、学期はじめには履修案内リーフレットを配布し、情報関係科目の概要を周知すると共に、新入生向けガイダンスでシラバスはホームページ上で閲覧できる旨を周知している。	情報関係科目シラバスの掲載項目を全学共通の書式とし、ホームページに公開し、情報関係科目の授業内容や成績評価方法を周知することができている。 また、例年1月に情報教育推進部会で「シラバス検証会議」を実施し、各科目シラバスがシラバス作成要領に基づき作成されているか(点検)検証をおこなっている。		情報関係科目の履修者へのアンケート集計結果を教員にフィードバックし、授業運営の参考としてもらうことを2018年度までに実施する。	
b ●シラバスと授業方法・内容は整合しているか(整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握)。 【約400字】	シラバスと授業方法・内容の整合性の確認については、情報関係科目の授業に配置している授業補助TAが、授業内容等を記録した授業日誌を作成している。シラバス記載の授業内容と授業日誌の内容を確認することで整合性の確認をすることができている。また、年に2回、受講学生に対し授業改善のためのアンケートを実施し、シラバスと授業方法・内容の整合性や学習実態等に関して意見を寄せられる仕組みとなっている。結果は担当教員および情報教育推進部長にフィードバックされている。	すべての授業にTAを配置し、授業日誌を作成することで、シラバス記載の授業内容と実際の授業の整合性の確認をすることができる。自習室で情報関係科目履修者から質問を受けた際も、授業日誌を参照することでより適切な学習支援をすることが可能となっている。		以下の取り組みを継続して実施する。 ・シラバスに各授業の概要・目的、内容、履修の注意点、教科書、参考書、成績評価の方法について記載する。また、授業内容は授業回ごとに記載する。 ・TAを配置し、授業日誌を作成して内容の確認を行う。 ・受講学生によるアンケート等により、各授業内容・方法やシラバスとの整合性について都度確認・検証する。	

2016年度 教育の情報化推進本部 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画	
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか					
a ◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、授業外に必要な学習内容の明示、ミニマム基準の設定等、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約400字】	<p>成績評価基準については、以下のとおりに設定し、情報関係科目シラバスに記載し明確化している。</p> <p>合格判定(単位取得) S 100~90点, A 89~80点, B 79~70点, C 69~60点 不合格判定(単位取得不可) F 59~0点, T 未受験</p> <p>また各科目の成績評価の方法については、シラバスで評価項目の内訳をパーセント表記することをシラバス作成要領にて義務づけている。</p>	<p>単位修得に必要な学習時間と成績評価の方法を明確化することによって、適切な単位認定ができています。</p>			
(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善(授業に関わるFD活動)に結びつけているか					
a ◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約800字】	<p>情報関係科目について、情報関係科目を担当する教員と本部員とで年1回担当者説明会・懇談会を実施し、情報関係科目の履修者状況や実力確認テストの結果を用いた学生の情報リテラシーレベルについての検証、学内のPCシステムに関する情報共有等をおこなっているほか「ミニマムリクワイアメント」の内容等についての意見交換をおこなっている。</p>	<p>担当者説明会で出た意見は、情報教育推進部会で集約し、教育内容や方法の改善のための材料として議論できている。</p>		<p>教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育改善に結びつけるため、情報関係科目を担当する教員と本部員とで「担当者説明会」を実施し、情報関係科目や、「ミニマムリクワイアメント」の内容などの意見交換を継続して行う。</p>	

2016年度 教育の情報化推進本部 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画	
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか					
a ●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。 【なし～400字程度】	情報関係科目を履修した学生の学習成果の評価に関しては、各科目担当教員に任されており、教育の情報化推進本部として学習成果を測定するための評価指標の開発は特におこなっていない。現在は、各科目担当教員によるレポート、試験、プレゼンテーション等により、学習効果を測定している。 2015年度より情報教育推進部で情報関係科目の履修者向けにアンケートを実施し、学習の成果に関する設問を設けた。アンケートの結果、2016年度の情報関係科目の満足度は、「非常に満足」が春学期30%、秋学期39%、「満足」が春学期35%、秋学期34%、「ふつう」が春学期26%、秋学期18%、「やや不満」が春・秋学期ともに6%、「非常に不満」が春・秋学期ともに4%という結果となった。		情報関係科目履修者向けアンケートについて、結果の提示が情報関係科目担当者説明会で行うのみとなっている。		アンケート結果は教員の要望に応じてデータを提供している。情報教育推進部会で検討を行い、2018年度から全教員にフィードバックする。
b ●学位授与にあたって重要な科目（基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目、卒業論文や演習科目など）の実施状況。 ●学位授与率、修業年限内卒業率の状況。 ●卒業生の進路実績と教育目標（人材像）の整合性があるか。 ●学習成果の「見える化」（アンケート、ポートフォリオ等）に留意しているか。 【約800字】	学習成果の「見える化」については、教育の情報化推進本部は授業における0h-o!Meijiシステムの「クラスウェブ」の活用を促しており、その結果、2016年度の情報関係科目では約84%の授業において、課題提出やグループワークで0h-o!Meijiシステムを活用している。0h-o!Meijiシステム上で提出した課題等の成果物や、ディスカッション記録、教員が提供した授業資料は、学生の「ポートフォリオ」ページに貯められる。	学生は、学年が上がっても自身の過去の学習成果を閲覧・確認できる仕組みとなっている。			情報関係科目担当者説明会において、0h-o!Meijiについて周知し、利用率の促進を図る。

2016年度 教育の情報化推進本部 自己点検・評価報告書

基準 7 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか						
a ●学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針に沿って、施設・設備、機器・備品を整備し、管理体制を備えているか。 ●教育研究等環境の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にし、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	<p>(1) 情報環境の整備</p> <p>① プレゼン設備の計画的更新 情報環境についての要望を各学部・研究科等から毎年度ヒアリングした上で、各キャンパスのプレゼン化率、既設プレゼン設備の導入年度のデータを元に、情報環境推進部会で更新計画を決定している。また前年度からの計画に基づき、教室のプレゼン化および老朽設備の更新を実施している。</p> <p>② PC環境の発展的整備 各キャンパスのメディア教室・自習室のPC環境について、利用者サービスの更なる向上、システム管理の効率化・コスト削減、キャンパス間のサービス標準化の観点からPC環境の更新を実施する。更新にあたっては、情報環境推進部で内容を確認した上で実施する。またPC台数について、学生数に対する供給量は不十分であり、今後PCの増設や持込PCや自宅等から利用できる環境整備等を検討する。</p> <p>③ 新しい授業形態への対応 キャンパス間や海外との遠隔講義、eラーニングなどの新しい授業形態への対応について検討する。また、授業活性化に資するアクティブ・ラーニング環境、スマートフォンやタブレット端末等にも注目した情報環境整備の検討を行う。</p>	<p>各学部・研究科から教育の情報化に関わる要望をヒアリングし、情報環境推進部会で2017年度の重点計画案を作成し、本部会議でその計画を決定した。2016年度の重点計画として決定していたプレゼン整備・改修を着実に実施した。また機器の老朽化や要望に対する改修等も実施した。授業活性化に資する環境整備の一環として、小テスト複合機スキャン機能(Oh-o!Meiji連携)を開発した。授業におけるコメントシートや小テスト実施後に並び替えや学生返却等の教員の手間を省くとともに、迅速なフィードバックにより、学びの振り返りを促進する効果が期待できる。</p>	<p>教室プレゼン化については、ほぼ100%近く整備できている(生田キャンパスのゼミ室のみプレゼン化率80%)。しかし既設の教室についても、アナログ設備や老朽化したプレゼン設備が多くなっているため、今後もデジタル化に対応したプレゼンの計画的な更新が必要である。PC環境についても、リース契約期間満了に伴い、各キャンパスにて定期的な更新と発展的整備が必要である。</p>	<p>教育の情報化に関わる要望については、毎年度継続して各学部・研究科からヒアリングを実施し、次年度の重点計画を決定する。</p>	<p>2017年度は以下のプレゼン設備改修を実施する。 (1) 駿河台：LT一般教室プロジェクト更新、12号館メディア教室 (2) 和泉：メディア棟小教室8室、第一校舎中大教室4室(3年目/3年計画) (3) 生田：中央校舎0602教室(LL教室)、中央校舎ゼミ室(0401~0404, 0413~0416) (4) 中野：413教室デュアルスクリーン化 2018年度についても2017年度の本部会議で承認された計画について更新を実施する。PC環境は、2017年度は駿河台、2018年度は和泉・生田のシステムを更新する。更新にあたっては、情報環境推進部で内容を確認した上で実施する。</p>	<p>プレゼン設備の更新は、長期的に計画をたてて順次進めていく。単純に機器を入れ替えるだけでなく、授業を行う教員からの意見を取り入れ、教育効果、効率性、公平性の観点から最適設備を導入する。授業活性化に資するアクティブ・ラーニング環境、ならびに利用者サービスの向上に資するPCメディア環境、ネットワーク環境についても、他大学等における先進的な導入事例について調査を行い、多様な授業モデルへの対応を検討する。情報基盤本部やユビキタスカレッジ運営委員会との連携を強化する。</p>
	<p>(2) 教育支援の推進 ア) 「Oh-o!Meijiシステム」を活用した教育及び学習の支援 全学的な教育支援システムの「Oh-o!Meijiシステム」は、大学生活に関わるお知らせを配信する「ポータルページ」と、授業をネット上に展開した「クラスウェブ」の2つの機能から構成されている。「ポータルページ」は学生の利用率がほぼ100%に達し、教員や事務室からの連絡等を学生一人一人に配信することができ、学生の大学生活全般を支援している。「クラスウェブ」では、開講している全ての授業に対する「授業ページ」を展開しており、全ての「シラバス」がオンライン上で閲覧・検索できる。さらに「クラスウェブ」は、①授業資料を事前事後に配付し予習・復習ができ、欠席者へのフォローとしても有効に機能している授業資料機能、②レポートの提出に加え、教員から学生一人一人に対するコメントと添削ファイルのフィードバックが可能なレポート機能、③学生が主体的に授業に参加できる仕組みとして活用している掲示板・アンケート(小テスト)機能、という特徴も備えている。 2013年4月から全学的に再構築版の運用を開始した。このシステムの再構築にあたっては、学生と教職員へアンケートを実施し、システム全体の操作性・パフォーマンス向上に加え、「スマートフォン対応(学生参加型の授業に活用可能)」「グループ機能(正課教育以外での教育支援)」「ポートフォリオ機能(学習の振り返り)」等を実現した。2016年度の学生のポータルページ利用率は100%、教員のクラスウェブ利用率は53.4%である。</p>	<p>新任教員研修等の活動により、教員のクラスウェブ利用率は50.9%から53.4%に上昇した。新授業時間割への対応として、モジュールで開講する授業を時間割・出講表に表示するよう改修を行った。授業で実施する小テストなどの紙文書を専用の複合機でスキャンし、クラスウェブに一括登録する機能を、本部会議で承認を得て追加開発を実施した。スーパーグローバル大学創成支援事業で計画されているシラバス英訳版をOh-o!Meijiで公開を開始した。</p>	<p>Oh-o!Meijiサーバは、2011年度末に導入しており、今後も安定的に稼働させるため、メーカーサポート期間等を考慮しながら、計画的にハードウェアを更新する必要がある。小テスト複合機スキャン機能は、2017年度春学期は中野キャンパスで試験運用中であり、秋学期からの全キャンパス展開に向けて運用評価する必要がある。政治経済学部で実施していた「global-meiji」(学生の語学スコア管理)を全学に展開する必要がある。</p>	<p>クラスウェブの教員利用率は着実に向上しているが、新任教員研修会でのシステム紹介やリーフレットの配布等、教員への利用促進を継続する。各学部・研究科から教育の情報化に関する要望のヒアリングを行い、次年度の重点計画を決定する。</p>	<p>2017年度は、負荷分散装置およびバックアップソフトのメーカーサポート期間が終了するため、更新を実施する。2018年度以降も順次サーバの更新を実施する。春学期中に中野キャンパスで小テスト複合機スキャン機能を使用した教員にヒアリングを行い、全キャンパス展開に向けた課題対応を実施する。学生の語学学習の動機付けとなるよう本人の語学スコアや取得スコアの推移をOh-o!Meijiで閲覧できる機能を追加開発する。(スーパーグローバル大学創成支援)</p>	<p>総合的教育改革、スーパーグローバル大学創成支援に資するOh-o!Meiji機能強化(科目ナンバリング、eポートフォリオ等)を推進する。また、継続的にシステム評価を実施し、利用者の利便性向上に取り組んでいく。</p>

2016年度 教育の情報化推進本部 自己点検・評価報告書

基準 7 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画		
				「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
	<p>イ)メディアライブラリーの運営</p> <p>各キャンパスには語学学習などのための教育用メディア教材(DVD, CD等)が多数保管され、授業での利用や専用ブースでの閲覧ができるようになっている。このメディア教材は、図書や雑誌等の印刷メディアとともに、教育研究・学習活動において重要な情報源となっている。メディア教材の新規購入については、教員からの申請に基づき教育の情報化推進本部教育支援推進部で審議し、購入の可否を決定している。</p>	<p>授業用メディア教材の購入を進め、学生が自学自習できる環境を整備することにより、メディアライブラリーの利用が促進されている。4キャンパスのメディア教材保有数合計は、2015年度より150点増加し、35,945点となった。</p>		<p>授業等でのICT利用の多様化に対応し、学生の国際環境への適応力と語学力を向上させるために、著作権の取扱いに留意しつつ、各キャンパスからのメディア教材購入申請を増やし、メディア教材の導入・整備を適正かつ柔軟に行っていく。</p>		
	<p>ウ)サポートデスクの運営</p> <p>リバティタワーを建設する際、多岐にわたる情報関連設備の利用者サポートを包括的な業務委託により行うことが決定した。それを受け、駿河台キャンパスでは2000年4月よりサポートデスクの運用を開始した。和泉キャンパス、生田キャンパスでは2001年4月、中野キャンパスでは2013年4月より運用を開始し、現在に至る。サポートデスクは学生・教職員のスキルの向上・技術の習得を目的とし、①教室等のプレゼンサポート、②学内ネットワーク(MIND)接続・利用支援、③Oh-o!Meijiシステム利用支援、④インフォメーション設備の利用運用支援、⑤学内の電光掲示板(IFB)および情報検索端末(IFIT)の運用支援、⑥証明書自動発行機システムの運用支援、⑦教職員の教材、コンテンツ作成支援、⑧機器の貸し出し、⑨個人用PCの活用、⑩ソフトウェアのインストール等の幅広い支援を行っている。日々のサポート内容については、サポート内容を記録したサポートデータベースを構築し、職員とサポートデスクでサポート内容や過去の履歴などを共有している。また、期間毎に、サポートデスクとのミーティングを行い、サポート内容の確認や問題点の共有、利用者対応などについて意見交換を行い、業務改善を図っている。</p>	<p>教員が多様な情報関連機器を活用して効果的な授業ができるように利用者サポートを行っている。一例として、TV会議システムによる海外との遠隔教育授業が和泉・生田・中野キャンパスで開講され、授業数は2015年度は1講座、2016年度より4講座となった。2017年度新授業時間割に向けサポート体制の見直しを行い、4キャンパスのサポートデスク開室時間を最終時限開始30分までで統一し、運用コストを削減した。</p>		<p>サポートデスク開室時間は2017年度の対応状況を検証し、課題があれば2018年度に向け運用を見直す。教育のグローバル化を推進するため、高度な技術・新しいメディア機器を利用した授業に適応したサポートを行う。また、テレビ会議システムの整備と利用支援を推進し、増加しつつあるキャンパス間双方向授業や海外との遠隔授業への対応及び支援を継続して行っていく。</p>		

2016年度 教育の情報化推進本部 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか					
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	自己点検・評価全学委員会による自己点検・評価の基本方針に基づき、教育の情報化推進本部の自己点検・評価報告書を毎年作成している。自己点検・評価報告書の内容については、各推進部が担当箇所を作成し、教育の情報化推進本部自己点検・評価委員会がとりまとめ、本部会議において内容確認と承認を行い、自己点検・評価全学委員会へ提出している。自己点検・評価報告書は本学ホームページに公表され、社会一般に対し公開されている。	毎年、自己点検評価報告書を作成し、ホームページで公表することにより、本部の活動内容の検証と、学内外への説明責任を果たしている。			
(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか					
a ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●PDCAサイクルを回すための、Check（点検・評価）およびAction（改善）の具体的内容・工夫 <参考：以下の事項に関して、関連するものについて記述する> ①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映 など	自己点検・評価報告書および長中期計画書の作成は、本部の各推進部が教育の情報化推進本部規程第10～11条で規程されている業務分担に従って担当箇所を作成し、完成した案を本部会議で承認をするプロセスとしている。全ての推進部の作成作業完了後に本部会議を開催し、前年度の自己点検・評価報告書案の検証と承認、また、その検証結果をもとにした次年度の単年度計画書、および長中期計画書の検証と承認を行っている。この、自己点検・評価報告書の検証と、検証結果を反映した単年度計画書、長中期計画書の策定を行うPDCAサイクルを機能させることで、本部の内部質保証システムとしている。 2016年度の自己点検・評価のうち、Oh-o!Meijiシステムの安定稼働、老朽化したプレゼン設備の更新などの課題については、2018年度計画にOh-o!MeijiシステムのWebサーバ更新や、各キャンパスのプレゼン設備更新として反映し、計画的に改善を図ることとした。	各推進部が担当箇所の作成し、他の推進部が作成した部分について、互いに内容の検証をすることで、内部質保証システムを機能させている。			